

2015年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	名古屋市立浮野小学校	氏名	高井 菜穂子
-----	------------	----	--------

1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

私の研修での目的は、ありのままのガーナを体験し、その中からガーナの良さを見つけることだった。今回の研修で、教育、産業、医療、歴史、観光、文化など、様々な側面からガーナを知ることができた。その中でも、ガーナの人々が自国に誇りをもって生活しているということを感じ、感銘を受けた。ガーナの平和を誇りに思い、文化を愛する心は、私たちも見習うべきところがあるのではないだろうか。実践では、ガーナの文化を紹介するとともに、日本の文化をもっと知りたいと思う気持ちや、自分のアイデンティティーに誇りをもつ気持ちを育めるようなことをぜひ取り入れたいと思った。

また、JICA の支援事業を通して、支援のあり方について考えることができたことも、研修の収穫の一つである。支援はまず自分の隣にいる人から始まる、ということに改めて感じることができた。

今回の研修では、当初の目的よりもたくさんのことが学べ、とても有意義なものになった。

2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

(1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

すれ違う人は皆挨拶してくれる、人々が時間にゆとりをもって生活している、助け合いの精神がある、家族を大事にしているなど、ガーナの良いところをたくさん見つけることができた。特に素晴らしいなと思ったところは、自国に誇りをもっているところである。ガーナの人に「ガーナのどんなところが好きか」と尋ねると、皆口を揃えて「Peaceful なところ!」と答える。これは、ガーナが多くの部族が暮らす、いわゆる多民族国家でありながら、部族間の争いがほぼ無いことや、西アフリカで最初に民主主義国家として独立を果たしたことを、国民が誇りに思っているからだということが、JICA スタッフの方の話からわかった。また、街や村で見掛ける多くの人が、老若男女問わず、アフリカ独特のカラフルな色彩の民族柄の服を着ており、独自の文化も大切にされているのだと感じた。そして、女性が皆おしゃれでした。編み込みのヘアスタイルは、私もいつかやってみたい!と思う。

(2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

ガーナは、JICA による支援、青年海外協力隊の活動、カカオ豆、医療など、様々な分野で日本と関わりがあるのだということがわかった。特に野口英世の遺志を受け継ぐかたちで設立された野口記念医学研究所では、ガーナの若い研究者たちが、医療への高い志をもって熱心に研究活動を行っていたことが心に残っている。エイズウイルスやエボラ出血熱などの感染症の研究で成果を上げ、西アフリカの医療の中心である野口研。日本からの支援も多く、ガーナの発展とアフリカの人々の健康という共通の願いに向かって、ガーナと日本が手を取り合っていることを知り、うれしく思った。

(3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

今回の研修で多くの支援の現場を見ることができ、そこで支援をする側とされる側の問題意識の差を感じた。

支援を受け続けることによる支援慣れが垣間見えるときもあった。他国ありきではなく、ガーナの人たち自身が、自分たちがより豊かに幸せになるために、発展の方法を考えていかななくてはならず、その手助けをするのが支援のあり方だと感じた。そして、その支援は決して一方的な押しつけになってはならず、相手国が本当に必要とすることを、国同士が同じ目的意識をもって進めていくことが大切であると思う。

また、発展していくことでその国の良さが大切にされなくなっていくのは、とても悲しいことである（日本もだが）。その国の文化や誇りを失わない発展の方法を探っていくことが大事だと感じた。

3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

JICAの事業に関して良いと思ったところは、様々な分野での支援を行っているということである。また、支援を民間企業に委託し、JICAだけでなく、民間が国際協力に関わることでできるための橋渡し役になっていることも良いと思った。

今後あると良いと思う視点については、支援を受ける側の支援慣れを少し感じたことから、与えるだけの支援ではなく、両者が同じビジョンをもって進めることができるようにするにはどうすれば良いのかを、さらに考えていけると良いのかと思った。JICAとしてどこまで支援できるのか、受ける側はその支援を受けてどうなっていきたいのか、互いの共通認識をはっきりさせて事業を進めていけることが大事だと感じた。

4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

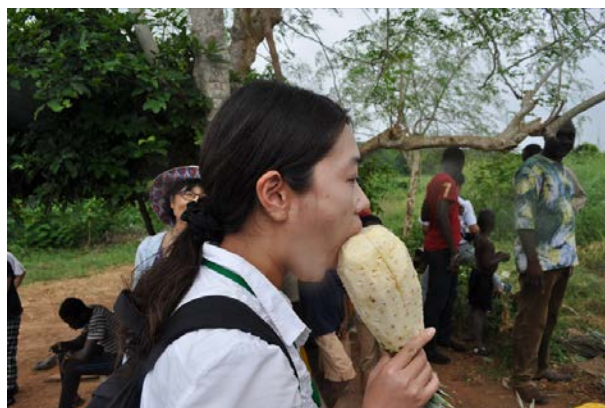
※別掲

5. 印象に残る写真2点とその解説

●写真1… [KEN_0546]

◇キャプション：パイナップル丸かじり！甘い！！

◇解説文：パイナップル農家で食べたパイナップルが、とても甘くて、丸かじり出来るほど芯が柔らかいパイナップルだった。日本に輸出出来たらと思ったが、輸出先としては日本は遠く、真空パックなどの加工をすればと考えても、加工の技術や費用が無く…。ガーナのおいしいパイナップルから農家の抱える問題について考えさせられた。



●写真2… [KEN_0041]

◇キャプション：編み込みヘアー

◇解説文：アフリカ系の女性の縮毛を生かした独特のヘアスタイルである編み込みヘアー。ガーナでも多くの女性が、このヘアスタイルにしていた。ガーナも、今後、単なる欧米化ではなく、この編み込みヘアーのように、国の文化や特性の生かされる発展をしていく道が開かれるといいなと思った。



6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・蚊対策として、持ち運び用のベープ（寝るときも枕元に置いて使える）と、DEET 約30%の海外製の虫除けクリームを持って行きました。虫除けクリームは通販で購入しましたが、注文してから届くまでに時間がかかるので、購入する場合は早めに注文をしておいた方が良いでしょう。スプレータイプの虫除けも持って行きましたが、こちらは気軽にスプレーできるので、持ち運び用に便利でした。
- ・手が汚れても、洗いたいときにすぐ手が洗えるわけではなく、手でご飯を食べる機会も多いので、ウェットティッシュは常備しておいた方が良いでしょう。
- ・洗濯したものを干すために、いくつかハンガーを持って行きました。干すスペースが限られていたので役に立ちました。
- ・名刺は持って行ったほうが良いでしょう。
- ・せっかくの機会なので、気になったことは（どんな細かいことでも、くだらないかな？と思うことでも）どんどん質問すべきだと思います。
- ・気候的に、傷が化膿しやすいそうなので、消毒液と絆創膏は持って行ったほうが良いでしょう。

7. その他全般を通じての感想・意見など

初めは日本から遠く離れた国であるガーナに行ってみたい！知りたい！という気持ちで臨んだ研修だった。しかし、帰ってくるときには、ガーナについて知れただけではなく、国際協力や国際理解について自分の考えをもつことが出来ている自分がいた。研修に行く前までは、漠然とした知識しかなかったけれど、支援の現場を実際に目で見たり、それに関わっている人から直接話を聞いたりしたことで、自分なりに多くのことを考え、吸収出来たのだと思う。ただの旅では味わうことの出来ない、貴重な体験が出来たことを嬉しく思い、また、この研修に参加して本当に良かったと思っている。

以上